JTのリトルシガー〈キャメルブランド〉

11銘柄のラインナップで選択の幅が広がる

―買い求めやすい価格の330円と360円―

JTは、8月3日に新タイプのカプセル搭載のリトルシガー「キャメル・シガー・メンソール・ベリーカプセル・ボックス」と「キャメル・シガー・メンソール・ベリーカプセル・ライト・ボックス」の2銘柄を全国発売する（**商品概要等は7面掲載**）。

キャメルブランドのリトルシガーは、2019年12月に新登場して以来、8か月で11銘柄のファミリー形成となる。価格は買い求めやすい20本入り330円・360円・8銘柄と、また、「味・香り」、「吸い応え」などの選択の幅が広く、さらにスーパースリムタイプや100㎜のロングサイズなど、お客様は好みに合わせて、価格や喫味を選べる豊富なラインナップを愉しむことができる。

しかし、リトルシガーは「葉巻たばこ」に分類されており、ニコチン・タール値の表示は義務付けられていない。お客様にとって、11銘柄それぞれの吸い応えについてはブランド名から多少推測できるものの、お店からアドバイスできれば、お客様の選択の決め手になるかもしれない。

JTでは新発売ごとに、当該銘柄の「吸い応えレベル」（喫味の特徴）を発表している。それにそって区分してみた。

【吸い応え区分】

（「しっかり」は強め、「ウルトラライト」は軽め、「ライト」はその中間）

■**しっかり**　「キャメル・シガー・ボックス」・「キャメル・シガー・メンソール・ボックス」・「キャメル・シガー・メンソール・スリム」・「キャメル・シガー・メンソール・ライト・ボックス」・「キャメル・シガー・メンソール・ベリーカプセル・ライト・ボックス」

■**ウルトラライト**　「キャメル・シガー・ウルトラライト・ボックス」・「キャメル・シガー・メンソール・ウルトラライト・ボックス」・「キャメル・シガー・メンソール・ウルトラライト・100's・スリム」

なお、キャメルブランドは、1913年にアメリカで誕生。100年以上の歴史を持ち、現在では世界100以上の市場で発売されている。

■**ライト**　「キャメル・シガー・ライト・ボックス」・「キャメル・シガー・メンソール・ライト・スリム」・「キャメル・シガー・メンソール・ライト・ボックス」・「キャメル・シガー・メンソール・ベリーカプセル・ライト・ボックス」

ケントブランドから初のリトルシガー3銘柄新登場

BATJは8月10日より、ケントブランド初のリトルシガー3銘柄を全国発売する。3銘柄ともに通常の太さでキングサイズ・20本入り400円。商品特徴は次の通り。

▼「ケント・リーフ・ウルトライト」＝しっかりとした味わいを満喫できるレギュラータイプ。

▼「ケント・リーフ・ウルトライト・メンソール」＝爽快感としっかりした喫味のメンソール。

▼「ケント・リーフ・ウルトライト・スパーク」（**写真**）＝ベリー系フレーバーが楽しめるカプセルを搭載した、吸い応えのある爽快感を楽しめるメンソール。

BATJ　20本入り400円

新・煙・故・知・新

たばこと塩の博物館：谷田　有史

たばこ雑学講座㉗

続・西部劇に登場するたばこ

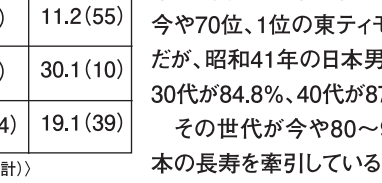
古い西部劇などを見ると北米の先住民（昔は「インディアン」と呼ばれていたが、現在、こうした言い方はあまりされていない）が、パイプを用いてたばこを吸い交わすシーンを目にすることがある。

実際、北米先住民とたばこの関係は大変深く、各部族間で最も広く行われていた儀式が、たばこを吸うことだった。考古学調査でも、北米先住民が暮らしていた住居跡から数多くのパイプが発掘されており、それを証明している。

彼らの喫煙は、人間の祈りを天上の神に伝えるための手段であり、パイプを通して立ち上る香りのよい煙が、祈りを成就させると信じられていた。また、パイプは霊界と意思を通わせるための通路の役目をするものと考えられ、神聖視されていた。

パイプの素材としては石が多く用いられ、その形態は部族によってさまざまだが、その中でも、ミシシッピ川流域を中心とする中部平原地域の部族のパイプは、「カルメット」あるいは「平和のパイプ」と呼ばれ、特徴的なものである。このパイプのボウル（たばこを詰めるパイプの先端部分）には、貴重なものとされていた「カトリナイト」という赤色の石が使われ、ステム（柄）は木製で、革や羽根で装飾されることもあった。

「平和のパイプ」は部族間に紛争が起きて、相手と戦うか和睦を結ぶかを選択する時に、部族の意思決定のシンボルとして機能したり、あるいは和睦を結ぶ場合には、相手とこのパイプでたばこを回し飲みして〝契り〟を結ぶなど、先住民文化の中で重要な役割を果たしていた。



装飾付木柄銅製トマホークパイプ（最大長:48.4cm）/たばこと塩の博物館蔵

このように儀式に用いられるパイプ以外にも、個人用にさまざまな形のものが用いられていた。特に先住民たちの間で人気が高かったのは、ボウルの部分が金属で斧（トマホーク）型をしたものだった。これはアメリカ大陸に進出してきたヨーロッパ人（白人）たちが、先住民と交易をする中で贈答品として考え出したものらしく、形状によって、イギリス・タイプ、フランス・タイプなどの違いがあった。

「百害あって一利なし」言説の背景⑪

武田　良夫

Q　前々号で、林知己夫先生が指摘するアメリカの疫学の問題点をお聞きしましたが、わが国ではアメリカの医学は世界最先端とされており、そこで学んだというのが学者や医師の〝バク〟になっています。

A　アメリカは科学的な医学・医療という面ではたしかに最先端かもしれませんが、アメリカの実態を見て下さい。世界でも跳び抜けて多額の医療費（**表1**）を使いながら（日本の2.5倍）、男性の平均寿命はわが国より4年も短いのです（**表2**）。

Q　しかも、アメリカ人の平均寿命は近年、短くなっているそうですね。

A　先進諸国では国民の寿命は延びているのに、アメリカは短くなっているのです。特に、白人の低学歴層が麻薬中毒や自殺、肥満による疾病などで亡くなっているのが問題視されています。アメリカも問題の所在を気にしており、2013年、全米科学アカデミーは「アメリカ人の健康状態は先進諸国の中では最も悪く、健康で長生きの先進諸国に比べ、アメリカは何か見逃してきたことがあるのかもしれない」と述べています。

Q　アメリカが〝見逃してきたこと〟を自覚しているのは興味深いですね。

A　私の手に余る問題ですが、アメリカ在住のジャズピアニスト・秋吉敏子さんが新聞のインタビューで、アメリカという国を評して「人間の機能は大事にするけど、人間を大事にしないところがある」（2005・1・8／朝日新聞）と述べたのを読んだ時、これぞ〝見逃してきたこと〟の本質に関わる指摘ではないかと膝を打ちました。

Q　アメリカの万事、機能主義的な考え方が人間の生命・健康観をも支配しているところに問題の本質がある、とする見方ですね。

A　そうです。もう一つ〝見逃してきたこと〟を考えるヒントがあります。心理学者の河合隼雄・京大名誉教授（1928～2007）がバンクーバーの学会の講演で「たばこは体に悪いというのでアメリカ人は禁煙に躍起になっているが、たばこを止めることに熱心になり過ぎてたばこを吸う態度までなくしてしまうと、それは人間のたましいに悪いのではないでしょうかと言うと、これは結構受けたようである」と雑誌に書いています（文藝春秋／1999・9月号）。

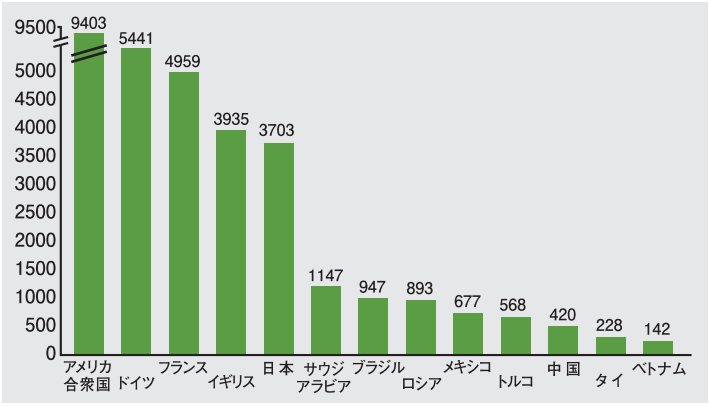
Q　「たましいに悪い」という言い方が、アメリカ人の中にもわかる人がいることが河合先生はうれしかったのでしょうか。

A　お二人の指摘から、「人間は臓器から成る生き物である」とするアメリカの機械論的な生命観（人間機械論）に対する批判を感じます。アメリカで臓器移植が盛んなのは、人間機械論が根底にあるからでしょう。かつて臓器提供を呼び掛けるポスターに「Recycle Yourself」というのがあったそうですが、まさに臓器はリサイクル可能な〝部品〟なのですね。とすれば、喫煙は肺などの臓器（部品）には害ばかり、禁煙運動に熱心な理由もわかります。

一方、東洋には「心身一如」という哲学があり、機能論的・機械論的な生命観は受け容れ難いものがあります。それが秋吉さんの〝人間〟軽視批判、あるいは河合先生の〝たましいに悪い〟論の根底にあるのではないでしょうか。

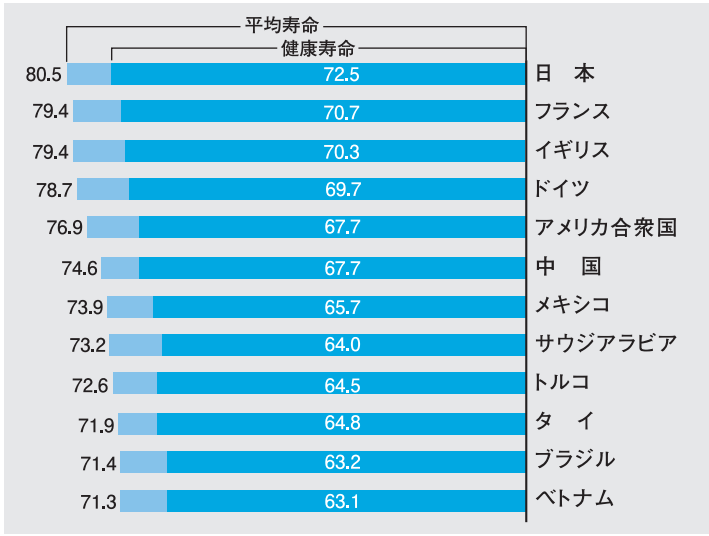
アメリカの人たちも時にはたばこに火をつけ、「たばこ好きの日本人やフランス人が長寿なのは何故だろう。われわれが〝見逃してきたもの〟は何だろう」と、じっくり考えてみてはどうでしょうか！

（表1）主な国の一人当たり医療費（2014年）　（単位:米ドル）



<出典:世界保健機関（WHO）「Global Health Expenditure Database」>

（表2）主な国の平均寿命・健康寿命（2015年）　<男　性>



<出典:WHO「Global Health Observatory Data」>

各国の喫煙率（%/括弧内は世界順位）

	男　性	女　性
日　本	33.7（70）	11.2（55）
フランス	35.6（62）	30.1（10）
アメリカ	24.6（104）	19.1（39）

（2018年/WHO世界保健統計）

表2のグラフではフランスが第2位。ちなみに、フランスの喫煙率は男女共に日本より高い。日本男性の喫煙率順位は今や70位、1位の東ティモールは78.1%だが、昭和41年の日本男性の喫煙率は30代が84.8%、40代が87.3%もあった。

その世代が今や80～90代になり、日本の長寿を牽引している。